

ほっかい新報

2006年 週刊 月3回発行

12月10日 (第1688号)

発行所
ほっかい新報社
060-0806 札幌市北区北6条西7丁目
電話 011(726)4858
北洋銀行(普)0576770
Eメール:hokkaijinpo@hotmail.co.jp

定価
月ごめ 230円(1部80円
(〒120円))
年ごめ 2,760円(〒1,440円)



風田副知事に緊急要請する、さとう陽子さん(11月24日)

住み続けられる夕張を

国のいいな市民追いつけし計画か

財政再建計画枠組み案をどうみるか

夕張市は十一月十四日、財政再建計画の基本的枠組み案を発表しました。市民の間からは「これでは夕張に住み続けられない」の悲鳴と怒りがわきあがっています。党空知対策委員長・佐藤陽子道議予定候補は、二十八日副知事に緊急要請しました。佐藤さんに、枠組みをどうついたらよいか、今後の運動の展望はどうかなどについてインタビューしました。

市の枠組み案の中味は、

佐藤陽子「とてもひどいものです。『これでは住み続けたくともムリです』『あまりにひどすぎる』の悲鳴があがっています。①軽自動車税一・五倍など市税引上げ、保育料を月

さとう 陽子



日本共産党道委 空知対策委員長に聞く

道が事業代行を
道の役割が注目され

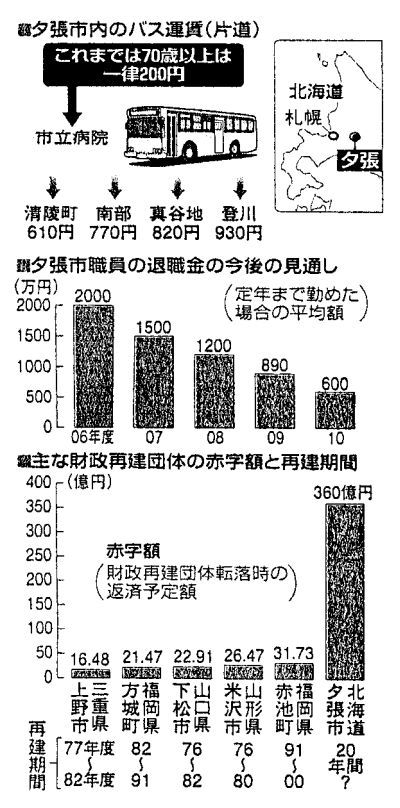
全国最高の住民負担+全国「最低」の行政サービス

項目	削減率	削減額	削減後の水準
職員数	26.9%	269人	09年4月までに半減(2006年4月)
特別職給料	6割削減	6割削減	07年度の職員比で最大4割削減
一般職給料	7割削減	7割削減	07年1月から全廃
特殊勤務手当	7割削減	7割削減	当面、約6割削減
期末・勤勉手当	7割削減	7割削減	特別職は当面支給せず
退職手当	7割削減	7割削減	支給月数上限を段階的に削減
市民税(個人・均等割)	3000円から3500円に	500円増	全国の最高税率に(06年4月現在で比較)
同所得割	6.0%から6.5%に	0.5%増	全国的に並ぶ
固定資産税	1.4%から1.45%に	0.05%増	税率の上限に設定
軽自動車税	現行税率の1.5倍に	1.5倍増	50%アップ・さらにゴミ有料化など
下水道料	10㎡1470→2440円へアップ	1000円増	補助事業は8割削減、不採算の観光事業は実施しない
施設使用料	50%アップ	50%増	
物件費・補助金など	8割削減	8割削減	
人件費削減	8.5億円		
市税増	9千万円		
引上げ	8千万円		
事業削減	8.7億円		

陽子「そうです。国と道、いいの「住民追いつけし計画」と批判されています。その総務省でさえ省内には「道が大規模な事業代行なことも踏み込んだ支援をすべきではないか」と本格的な支援を望む声が多い(日経)〇六・十一・十

道が十一月に決めた「夕張支援策」は、職安との協力や道土事のくりあげ、施と夕張での入札など、あまりに貧弱、貧困そのものです。十二月道議会には補正予算案として提案されています。二月の最終補正予算に本格的な支援策を計上すべきです。夕張市が金しほりにあ

財政再建枠組みとくらし



夕張市が金しほりにあつて身動きがとれないなら、道が本格的にのり出すべきです。「代行」とは、本来なら市が実施していた事業(福祉除雪、高齢者敬老パス、地域バス助成、公衆トイレの維持など)

を、道が夕張市に代って事業主体となって実施するものです。副知事に二十四日申入れされたとか。陽子「はい、そうです。六項目の二に「道として大規模な代行事業を行い、道の支援計画をつくる」提案をしました。交通費助成がなくなれば、安心して医療にかかれず、生活できないなど苦境を伝えました。風田副知事は「市民生活を中心としての支援策をまとめたい」とも二歩踏み出す考えを明らかにしました。

福祉除雪の募金を
除雪ヘルパー事業から除外された方もいるのですか。陽子「市では高齢者住宅除雪ヘルパー派遣事業(福祉除雪)は二百四十五世帯(七百三十二万円)に実施してきたのです。今年度は何とか実施になりましたが、税制改悪によって「住民税課税世帯」に戸近くなつて、事業から除外されたのです。所得は少ないのに控除がへって「非課税」でなくなり、体力はより低下しているのに、福祉除雪から除外されたのでは、冬の生活できない世帯が出来ます。だからこれらの所得税非課税の高齢者世帯に、道民・住民の協力で「除雪券」をわたせればすばらしいことです。灯油代として「灯油券」。そんな運動もひろげたいですね。

道の短・中期の雇用計画
雇用対策が大事です。陽子「はい。働ける人が働く仕事を確保できることが大切です。四百人もの離職者が出てくれば、道が大きな就労対策をとる、緊急雇用交付金事業をつくること、中長期的にはゴールデンターや介護福祉学校の誘致なども極めて重要です。養護老人ホームは民間活用でも道が存続をはかることです。住み続けられる対策が必要ですね。陽子「そうです。『財政再建』といいますが、高齢者も、子育て中の若い世代も「もう住めない」と他へ社会的流出すれば、財政再建計画の前提が根っ子から崩壊します。人口流出が激しくなれば、交付税等もへり、返すものも返せなくなることは明らかです。誰もが住み続けられるまち・夕張をつくること、地域活性化と雇用確保の計画を道がたててすすめてほしいです。



「金成マツノート事業、継続を国に働きかける」
真下紀子道議の一般質問に

知里幸恵が、金成マツノートの取組を継承する文科省に「金成マツノートの取組を継承する文科省に」を申し入れるよう求めました。知事は「貴重な文化遺産の認識を示し、教育長が、平成二十年度以降に、おいても、補助事業として継続できるように引き続き国に働きかける」と答弁しました。一九二八年(昭和三)から、幸恵の叔母の金成マツがユウカラをローマ字で筆録したノート「地元の強い要望があれば約百六十冊を、今回事業として受け継ぎたい」ということを受けて、今回とりあげたものです。

九条の会のシンボル(マスコット)はナキウサギ
東川九条の会は八月六日(マスコット)はナキウサギ
足立しました。九条は時代をきらう若者としては、おくれ、日本国憲法は変えていこうという人が増えていくなかで、その人達と話し合うにも自分たちでしっかり勉強したいという会員が多く、毎月憲法学習会をひらくことにしました。九月、十月と二回実施しました。誰か参加するかわからないままスタートしました。人が人をよんで、互いにつながる場面もありました。そこがとってもおもしろい学習会です。こんなに自分自身で考えて勉強するのは久しぶりと年輩者から

憲法を守ろう

「一割の利用料払っても二万五千円程度は残る」と国の言う基準は何ですか。それが最低限の生活はとてできません。「障害者は一段低い生活をしてほしい」というのが国の考えなのか。「人の生命や生活をどうささめるのか」という理念がない。▼二日、行われた「障害者自立支援法に地域の声を届けよう」シンポジウムで、語られた参加者の声です。▼自民・公明の国会議員は、「自立支援法を口滑りに運営するために補正予算をくみませます」「応負担は続けなくてはなりません」と無慈悲な言葉で答えました。「どこをどう直して行くのか、具体的な議論が必要な段階になっている」と民主党衆議院議員。▼「当り前に生活することが、なぜ益なのか。応負担は撤廃を。生きる場所が失われないように、報酬単価引き上げの運動に、障害者も一緒に取り組んでいる。狭い枠内でのやりくりではなく、枠そのものを広げることがを早急にするべき」と紙智子参議院議員が、参加者の気持ちとピッタリ合致しています。心にストリートに届き、共感の拍手がおこりました。▼これまでの運動で作り上げてきた障害者福祉が崩れて行く。間違った理念でつくられた法律は抜本的な改革を一人ひとりに訴える言葉は力つよい。▼著大な生活を望んでいるのではありません。人としてあたりまえの普通の生活、等しく憲法で保障されている生活をしたい。国民だれもが望み、願っていることではないでしょうか。

焦点

ツノートの取組・公刊が一九七九年から続けられてきました。この事業が打ち切られそうになっていきます。五日に開かれた道議会の一般質問で日

